



発行所
財団法人漁船海難遺児育英会
東京都千代田区内神田
2丁目2番1号
鎌倉河岸ビル内
電話 03(256)1981
03(256)8394
印刷 株式会社印刷センター
電話 03(582)8541

母の留袖



長坂孝子 (旧姓館)

私の両親は、今から二十七年前に結婚しましたが、結婚式もせず、記念写真も、結婚指輪もありません。ただ、結婚する時に、父が祝いの品として贈ったという留袖があります。幼い時、母から「この着物は、結婚する時父さんからももらった物だよ」と聞かされ、いつの頃からか、私がお嫁さんに行く時には、この着物を着て行くことと覚えていました。

そして今年の四月二十九日、私は父が二十七年前に贈ったという、母にとっては花嫁衣裳のかわりだった留袖を着て嫁ぎました。留袖を着て、母と手をつないで入場する時、なんだかかき父にも花嫁姿を見てもらえたような気持ちで、胸がいっぱいになりました。と同時に、しっかり手を握り目に涙を浮かべている母の手を離し、嫁ぐのが申し訳ないように思いました。

父が亡くなって、今年で十二年になります。父は小さい頃から、苦勞続きの生活で、中学卒業と同時に船に乗り働くばかりの人生だったと聞きました。そんな父がやつの思いで家を新築し、これからは人並みに楽しみを持ち、少しは余裕のある生活が出来るという矢先の不幸でした。

あと二日すれば、数カ月ぶりに父さんが帰って来ると、家族四人うきうきしながら家中清掃したり、父の好きな

今年の八月二十二日の父の命日には新しく家族の一員となった、私の夫、義弟、姪、そして母、妹、弟と七人みんなそろってにぎやかに墓参りに行くことと思っています。何も親孝行らしい事は出来ませんが、いつまでも兄弟が仲よく、そして父と母が歩んだように地道に幸せな家庭をつくる事が、私達が出来る最大の親孝行であり、父への一番の供養ではないかと思えます。

〒031 青森県八戸市
小中野二一九一二十

娘の七夕

蔵谷 とし子

あの悪夢としか言えないような日から十年の月日が経とうとしています。あの頃は、待ちに待った子供にも恵まれ、主人達の仕事の方も順調に行き、幸福な生活を送っていた矢先の出来事でした。

昭和五十五年、七月七日、主人は三十三歳、私は二十七歳、娘は生後七カ月の事でした。その日は、娘が風邪の為、看病中の朝の電話……。

主人が無線機の修理中に感電し亡くなったとの事でした。一瞬、他人事のように、何かの間違いだと自分に言い聞かせながらも、押さえ切れない不安と胸騒ぎに我を忘れてしまいい間につき落とされた思いでした。

当時、主人は八戸のいか釣船に乗っており、新潟港に入り「佳代は大きくなったか、早く顔を見たいけど漁の様子を見て二十日ぐらいで帰るかな、明日は早く出るから電話が出来ないよ」と連絡があり、また、早朝「今から出るから……」と。

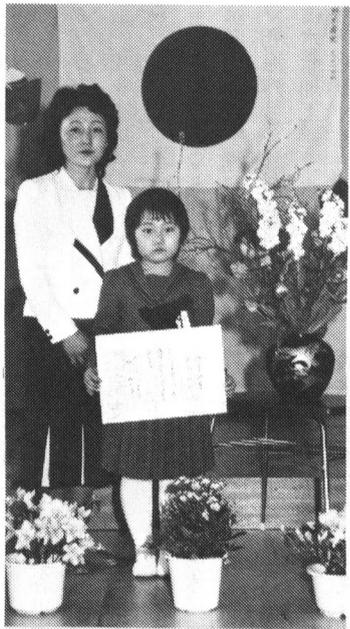
これが最後の会話でした。それから数日後の事故でした。

主人はよく私に「自分の家族も大事だが、それに乗組員の生活も肩にかかっているから頑張らなくては」と、いつも口癖のように言っていました。

命日の七月七日は織姫とひこ星が一年に一度会うことが許される日なのに、娘にとっては父親との別離の日になってしまいました。

ある会で「佳代ちゃん、お父さんは何のお仕事をしているの」と聞かれ、父のことを聞かれるのが嫌な娘は一瞬戸惑いながらも「空の星でお仕事をし

私の宝物



お母さん・佳代子ちゃん
岩手県中野小学校
四年 蔵谷 佳代子

私のお父さんは、私が生まれて七カ月の時に亡くなりました。でも私は、お父さんはどこかで仕事をしているんだろうかと思う時もあります。給食時に、友だちがお父さんの話をしているのを聞きました。みんな、お父さんの話をしています。たのしいことばかりを話しています。友だちが、「佳代ちゃんのお父さんどんな事するの」といわれたりしますが、私は「ないしょ」といいます。そんなとき、お父さんが

「笑って言ったそうなんです。その言葉のように負けん気な意志の強い子です。私にとっては、それが一番心強く救われる思いです。よくまわりの人に「この童子あー、お父さんにそっくりだなあ、まるで判こをついたようだ」と言われ、娘は満足そうな笑みを浮かべておりました。父の腕の温もりを知らずに育つても、皆の話の中に父親像を描いて、すごく尊敬しているようです。

親子二人の生活ですけれど、世の中には恵まれない人々が沢山いると言う事を、自分にも、子供にも日々、言い聞かせて強く生きねばと思っております。

まわりは、漁師や出稼ぎが多く、そうした地域なので幼な娘の言葉ではないけれど、天の川であの好きだった漁師をしているのだと思っております。母親一人の子育ては、決して子供には「アバカリではない事」が世間を見て胸がいつも痛みます。でもこの十年の年月を乗り越えた苦勞を元に、周囲の何事にも挫けず佳代と共に精一杯、生きて行こうと思っております。

〒039-13 岩手県九戸郡種市町大字
有家第八地割八一の一九

ぎょうろちようをして、いっしょうけんめいがんばったこと、家にたくさんある表彰じようのこと、など、そんなお父さんをとでもえらかったんだなあと思えます。私もまけないくらいがんばりたいと思えます。小学校に入ってから、水泳大会とか運動会などの時、学校に行く前にお父さんの写真の前で、がんばれるようにとおねがいしました。そうすると私は勝てるような気がしました。お父さんは、スポーツが好きで足が速く野球が大好きだったそうです。いろいろなことをおしえてくれるお母さんは、家で和さいをしています。ときどき、「かたがこったからもんで！」というので、ありったけの力でもみまをゆがめながら、上手だね！とほめてくれます。仕事がいそがしいときは、朝までもねないでぬつている時もあります。そんなお母さんを見ると、かわ

「漁船海難遺族生活実態調査」のお礼

昭和六十三年度に高知県と愛媛県で実施いたしました調査の報告書がましまりました。御多忙の中御協力いただきました皆様は心よりお礼申し上げます。少し残部があります。関係者で、御希望の方は事務局まで御連絡ください。

平成元年度 全国海難防止強調運動

九月十六日～九月三十日

「海難ゼロへの願い」をスローガンとして、官民の関係者が一体となつて海難防止運動を展開し、海難防止思想の普及と高揚を図ることを目的としています。本年の重点事項は「ゆとり」と思いやりのある航海」です。

「海難・労災事故をなくそう」これは漁船海難遺児を励ます運動の大きな願いです。本会もこの強調運動の協賛団体の一員です。

第二回
願書受付締切日
平成元年七月三十一日

〒039-13 岩手県九戸郡種市町大字
有家第八地割八一の一九

